

音から紡がれる物語、響きが映し出す空間

書き記された楽譜を手に、ピアニストは空想する

メロディ、ハーモニー、リズム、様々な音楽要素の緻密な融合によって生み出される空間を。

その空間は五感を刺激するあらゆるものを包括し、作曲家の想いと共に過去の景色を映し出し、魂へと伝える。

当時の人々の会話、彼らが感傷に浸った絵画や尊敬していた音楽、慣れ親しんだ香り、冷たさと暖かさ、光の明暗・・・。

過去へとつながるその響きは偉大なる作曲家たちによって紡がれ、演奏を通してその場にいる人々に過去の記憶と空間、壮大な物語を追体験させてくれるのだ。



音楽大学の同期として出会った二人。在学中から、一緒に演奏をしたり多くの時間を共に過ごしました。卒業後、鈴木はドイツ、阿部は日本とドイツを行き来する形で音楽を学びました。

「いつか演奏会をしよう」と長年語っていた夢を渡欧中に話し合い、母国日本で実現出来ることを幸せに思っています。そして、今回公演を行う館山市は鈴木さんの故郷。生まれ育った街へ演奏をするために帰って来れるという事は、音楽家にとって一つの大きな喜びです。

写真は2024年、たくさんのお土産を手に入れて、満足気にパリの凱旋門前で撮影したもの。ドイツでの話し合いを終えた後、フランスへ赴いて美しい街並みを歩いた時間は、私達の演奏にとって有意義な時間となっているはず！



阿部 仁哉
あべまさや

神奈川県相模原市出身。3歳よりピアノを始める。国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ専攻)を卒業。ノーマン・シェトラー氏の公開レッスンを受講。2015年、2016年と八王子いちようホールロビーコンサートに出演。2018年には、選抜による八王子いちようホール主催ステップアップコンサートに出演、また2019年には選抜によるジャンプアップコンサートと称してリサイタルを果たす。フランツ・リスト・ヴァイマル音楽大学(ドイツ)にてデーニシュ・ヴァーリョンのマスタークラスを受講。修了演奏会に出演。ウィーン国立音楽大学(オーストリア)にてヨハネス・クロップフィッチウのマスタークラスを受講。バーデンにて開催されたコンサートに出演。現在、神奈川県にある音楽スタジオ「エムジーク・スタジオ」にて、研究生として公共施設のロビーコンサートへの出演や各地の老人ホームへ訪問しての公演、小学校への訪問公演等を行いながら、ピアノソロだけでなくピアノ伴奏・室内楽アンサンブルなどを通じて幅広く自身の演奏活動及び研鑽を積んでいる。ピアノを丹羽由里子、有森直樹、太田太郎の各氏に師事。折を見て、加藤一郎、田村美和の各氏からもアドバイスをもらう。



鈴木 和輝
すずきかずき

千葉県館山市出身。国立音楽大学演奏学科ピアノ専攻、同時にアンサンブル・コース(歌曲伴奏)を修了した後、同大学大学院歌曲伴奏科にて修士過程を修める。学部、修士過程在学中、様々な歌曲マスタークラスや作曲ワークショップに参加する他、第84回「新人演奏会」(読売新聞社主催)など数々のコンサートにて多くの声楽家、器楽演奏家と共演。2017年に渡独し、マンハイム音楽大学に入学、修士過程(Collaborative Piano)を経た後、リート科とコレパティートル科のディプロムを取得、声楽科や器楽科教授のクラスやオペラスタジオなどで伴奏助手を務める。マンハイム協会主催コンクールにて第1位受賞、2020年にドイツラジオ放送局にてソプラノ歌手、ヨハンナ・バイヤー氏と共演し、ニュルティンゲンにてリサイタルを行う。リヒャルト・ワーグナー奨学金授与、マスタークラスでの伴奏など、伴奏共演者として研鑽を積みながら積極的に活動している。これまでに、鈴木みさよ、河村初音、三木香代、ミハエラ・トミ、コッリーナ・コルフ、ダビッド・サントス、アクセル・パウニに師事。現在、ドイツにてピアノ講師、コレパティートル、伴奏共演者としてコンサートでの共演や後進の指導にあたっている。

3/7 2026 13:30開場 千葉県南総文化ホール小ホール
14:00開演



・JR内房線 館山駅東口より日東交通バス(亀田病院行、安房白浜行)にて「南総文化ホール」下車、徒歩3分。または徒歩約20分

3/15 2026 16:30開場 ルーテル市ヶ谷ホール
17:00開演



・JR総武線・都営新宿線(A1出口) 市ヶ谷駅 徒歩7分
・東京メトロ有楽町線・南北線(B6出口) 市ヶ谷駅 徒歩2分